2013年10月21日 中日新聞 朝刊 19頁

備える3.11から　第79回　子どもを守れるか（下）

設備も心構えも鍛える

中部の保育園・幼稚園 アンケート分析

東日本大震災を機に、中部地方でも沿岸部の保育園や幼稚園の津波対策は一変した。震災から二年半以上がたち、各園で対策が進む一方、新たな課題も見えてきた。前回に続き、愛知、三重、静岡、福井四県の沿岸六十六市町村を対象に実施したアンケートから検証した。（中沢誠）

津波災害で避難場所や手押し車、園児を背に逃げる時の対策として、負えるおんぶひもの購入、アンケートで多かった。浸水想定区域内にある園は、救命胴衣の配備も進む。昨年十二月、静岡県袋井市が市立浅羽南幼稚園と私立あさば保育園の寝時もトレーナーを着ワーには、リヤカーで頂上まで上がれるよう、らせん状のスロープを取り付けた。

そして「緊急にあるトを変更するなど、避難訓練を実践的にするなど、時間帯に応じた対策の導入③抜き打ち訓練や毎回避難ルーち訓練や毎回避難ルー

❷双葉幼稚園の9月の津波避難訓練で、非常階段を上って園舎屋上に逃げる園児たち　❸今年3月に完成した津波避難用の非常階段＝いずれも静岡県沼津市で

通り、設備面でなく、目頃の「意識改革」も進んでいる。

傾向としては①マラソンをしたり散歩の距離を延ばすなど、園児の体力を増強する②昼の体力を増強する②昼隣に建てた津波避難タる、上履きを室内に置高台や津波の浸水想定区域の外に変更した園は多い。しかし、より安全な場所を選んだこそして、逃げる距離が延

■ 園児の足

震災後、避難場所を園児の足で三分ほどだった避難時間が十五分まで発揮できるかは難しい問題だ。

アンケートでは「園で協力を求める動きは広がっているが、こうした大人側が積極的に動くかどうかで、幼い命が助かる確率が変わってくる。

■ 財源に壁

施設自体の移転を決断する自治体も多い。

静岡県磐田市は、沿岸部の三幼稚園「保育園」を統合し、浸水想定区域外に移転する。

鳥羽市では今春、市立相差保育所を高台の閉校した小学校二階に移転した。残る浸水想定区域内の四保育園のうち、高台移転が決まっているのは一園だけ。残る三園も保護者から要望は出ているが、計画は未定だ。

市内には山間部が海際まで迫る地形が多く、移転できる高台が少ない。山を削れば、工事費は用地買収を含め億単位に上る。市担当者は「保育園を高台に移転したいが、国の補助がなく市の負担が大きい」と説明する。財源や用地面から手をこまねいている自治体や、園は少なくない。

びたというネックを抱えるケースもある。

静岡県湖西市は、浸水想定区域内にある園の避難場所を高台に変更したが、「階段を上って避難する場合が多い」と懸念する。

向かいの高校から高台の中学校に避難場所を移した三重県鳥羽市は、実際に災害が起きた時、日頃の意識付けが難しい。

判断し、津波の際は職員が車に分乗して避難することを決めた。

実践型の防災教育を受けている釜石東中学校の生徒は地震直後に避難を始めただけでなく、近隣の小学生の避難も誘導した。園側が周辺の企業や住民、学校に園児の避難・誘導を協力を求める動きは「散歩の雪囲気」で行、児がバニックになり、

「転んでも構わないぐらいの駆け足で走る」と、状化で道路や橋が壊れ水想定区域内にある園の避難場所を高台に変更したが、「階段を上って避難する場合が多くなり、園のスタッフだけで安全に素早く避難させるのは難しい」と懸念を示す。

台の中学校に避難場所を移した三重県鳥羽市は、実際に災害が起きた時、日頃の意識付けが難しい問題だ。

アンケートでは「園児の足で三分ほどだった避難時間が十五分まで発揮できるかは難しい問題だ。

アンケートでは「園で協力を求める動きは広がっているが、こうした大人側が積極的に動くかどうかで、幼い命が助かる確率が変わってくる。

■ 財源に壁

施設自体の移転を決断する自治体も多い。

静岡県磐田市は、沿岸部の三幼稚園「保育園」を統合し、浸水想定区域外に移転する。

鳥羽市では今春、市立相差保育所を高台の閉校した小学校二階に移転した。残る浸水想定区域内の四保育園のうち、高台移転が決まっているのは一園だけ。残る三園も保護者から要望は出ているが、計画は未定だ。

市内には山間部が海際まで迫る地形が多く、移転できる高台が少ない。山を削れば、工事費は用地買収を含め億単位に上る。市担当者は「保育園を高台に移転したいが、国の補助がなく市の負担が大きい」と説明する。財源や用地面から手をこまねいている自治体や、園は少なくない。

もらうのは難しいので、訓練を繰り返して体で覚えさせることが大切だ。職員は、自分がどう動けば園児が落ち着いて避難できるのかを訓練でチェックするよう心掛ける。また、避難時には、保育園や幼稚園では人手不足が予想される。地域ぐるみの支援が求められる。そのために園も、日頃から地域とのコミュニケーションを深めておくことが必要だ。

東日本大震災後、中部4県の沿岸自治体で進む津波対策

		園名	主な取り組み
愛知県	名古屋市	全公私立保育園	市が2012年度末、緊急地震速報の受信機配備
	西尾市	白浜保育園	夏ははだしだったのをシューズ履きに 長い距離を走っても安全な厚底の靴推奨
	蒲郡市	あけぼの幼稚園	園庭でマラソンし、園児の体力向上を図る
三重県	尾鷲市	尾鷲第三保育園など	2016年度から浸水想定区域の園を高台移転
	志摩市	甲賀保育所	体力増強や危険箇所の把握を兼ねて、散歩の距離を延ばした
	紀北町	紀伊長島幼稚園	同じ避難所に行く中学生に園児を預けて避難する訓練
静岡県	伊東市	宇佐美保育園	昼寝のとき園児の上履きを室内に。防災だより作成
	掛川市	おおぶち保育園	昼寝時にパジャマからトレーナーに変更
	袋井市	浅羽南幼稚園など	市がリヤカーでも上がれるスロープ付きの津波避難タワー建設
福井県	小浜市	浜っ子こども園	職員の自動車に分乗して避難訓練

リヤカー購入・駆け足で訓練・住民と連携

沼津・双葉幼稚園

屋上への非常階段を設置

海から約八百㍍の静岡県沼津市の私立双葉幼稚園は今年三月、屋外から高さ八・四㍍の園舎屋上へ直接避難できる非常階段を設置した。国の補助は、東日本大震災まで考えたことはなかった」園長の横山政遵さん（ま）は、こう明かす。

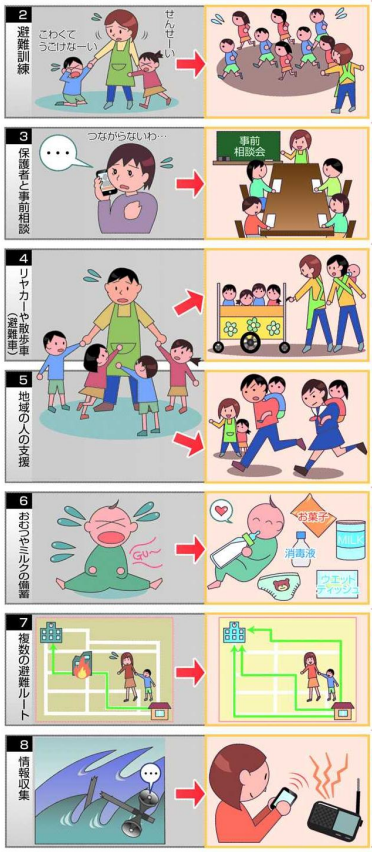
南海トラフ巨大地震の想定では、近くの海岸に約八分三十秒で最大高さ六・九㍍の津波が到達する。避難場所だった近くの小学校までは園児の足で十分前後かかる。横山園長は「震災で、子どもの命を預かる責任の大きさを痛感した。読むだけのマニュアルはいらない」と表情を引き締め た。

園舎は地震の揺れに耐えられる設計だ。それだけ同園にとって津波への危機感は大きい。

訓練のたびに職員と反省会を開き、防災マニュアルを見直す。園児のライフジャケットは、訓練の結果、まず逃げるのが先決だという職員の意見で、屋上で装着するルールに変えた。

横山園長は「震災で、子どもの命を預かる責任の大きさを痛感した。読むだけのマニュアルはいらない」と表情を引き締め た。

園児向け津波対策



各種状況を想定し評価を

日本保育学会の「災害時における保育問題検討委員会」前委員長で、和洋女子大・太田光洋教授（保育学）の話　園外保育中や昼寝中など、いろんな状況を想定した訓練を重ねることで、いざというときにも冷静に対応できるようになる。幼い子どもたちに言葉だけで理解して

次回は、11月4日に掲載します。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています